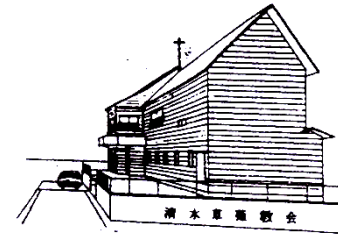


《今朝の聖書から》

ここに、不幸な人が登場します。目が不自由な人です。聖書には“生まれつき”と書かれています。いろいろな意味あい不幸ですが、ここではそのうちから二つのことについてみてみましょう。まず、この人は見えたという経験がないのです。私たちは、見えるとか視力があるということを言うとき、その反対の状態を想定して言います。“見えた経験がない”というのは本当に不幸なことです。“世の中の人を見るということをするらしい”と思いつけるわけです。また、その原因が分からないということ。今は医学の知識をもってすればかなりのことまで原因もわかるでしょうが、それでもわからないことの方が多いでしょう。このように障害を持っているということは、今日に至るまで、どんなに権利意識が高められても、残念なことです。しかし人は、どんな障害が、肉体的にも社会的にも負わされても、精いっぱい生きていくように造られています。そのことをまず覚えましょう。人の素晴らしさの一つは、“疎外からの解放”にむけ、戦うことができるということでしょう。もう一つ、見えないということの社会的な意味を考えましょう。これはその背景によって異なるでしょうが、2節に、弟子たちが、“本人の罪か親の罪か”ということの問題にしていることからよく分かります。しかし、主イエスは、見えないということが、罪の結果ではないと宣言されます(2節)。それ以上にイエス様が、まずこの人に目をとめられます。他の人たちはこの人のことを問題にしなかったのです。このように、誰よりも、真っ先に一人一人の困難に目を注いでくださるのはイエス様でしょう。イエス様は、“神のみわざが現れるためだ”と、ちょっと不思議なことを言われます。“ここになぜ桜の木があるのか”と私たちが考えるとき、“誰かが植えたのだ”と考えないでしょうか。イエス様は“春に花が咲くためだ”という仕方で、回答をされたわけです。“イエス様と一緒にいるときは昼です(4節)”，多いに働くことができるときなのです。しかし、イエス様と一緒にいない時、またその人は、夜を歩いて働けないでいるのです。働けないでいたこの人が救われ、見えるようになったことも、疑うことしかできなくなっていたのです。私たちはなぜ教会に集うのでしょうか。それは、人が信じないほどに変えられるためなのです。そして今まで居ました、暗い世界に光と指し示す為に、帰っていくことなのです(7節)。遠くではないその場所、そこで神の御業が現れたのです。

週報

2008年 2月 17日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸